

教育目標
考える

経営スローガン
みんな幸せになろう

— Well-Being 誰一人取り残さない —

1 学校経営の方針

何が「幸せ」かは、一人一人違い、場面場面で違います。みんな違って当たり前 (Diversity)、違いの中から Well-Being (=幸せ) が生まれる。ただ一つ共通することは、人はみんな幸せになるために生まれてきた (Inclusion) ということ。私も、あなたも、家族も、友人も、地域の人、日本中、世界中の人、みんな幸せになりたいと願っています。昨日より今日、今日より明日、もっと良くなりたい (Well-Being) と願っています。何が幸せか、どうしたらみんな幸せになれるのか、答えは一つではないし、答えはないかもしれない。だから問い続け、考え続ける。これが中条中学校の教育目標「考える」です。そしてみんな幸せになるために、誰一人取り残さない。それが学校の使命です。

～「対話」と「協働」から生まれる Well-Being を求めて～

「あなたは どうしたい？」 「なぜそう思う？」 「どうしてほしい？」

他者の考えや価値観は、自分とは異なります。自分の価値観を押しつけず互いの言葉を聴き合い、「対話」と「協働」で Well-Being を求めて「Diversity & Inclusion」の実現を目指します。

(1) 生徒への願い

ア 自分の幸せを「考える」生徒

「Reconciling tensions & dilemmas (対立やジレンマに対処する力)」

- (ア) 自分と向き合い自分らしさを知り、困難にも向き合って対処できる力を培ってほしい。
- (イ) 自らの将来を見つめ、必要な学力、資質能力を身に付けようとする態度を培ってほしい。
- (ウ) 自らの可能性を信じ、よりよい自分を実現してほしい。

イ 身近な人の幸せを「考える」生徒

「Taking responsibility (責任ある行動をとる力)」

- (ア) 他者との関わりの中で生かされている自分に気づき、自らの役割を果たしてほしい。
- (イ) 友人や家族、クラスメートなど、自分とは違う考えや行動をする人とも向き合い、他者を尊重し大切にしてほしい。

ウ 地域社会や世界の幸せを「考える」生徒

「Creating new value (新たな価値を創造する力)」

- (ア) 私たちには社会を変え、世界を変える力があることを自覚し、自分にできることを、気づき、考え、実行してほしい。

(2) 教職員への願い

ア 学校運営の主体としての教職員

- (ア) 何が必要か、本当に必要か、そもそもを疑って、みんなの幸せのために「こうしたら良いのではないか」ということを積極的に提案し、実現に向けて行動する。
- (イ) 報告・連絡・相談・**確認**を徹底する。事態の展開や収束の如何は初期対応がすべてである。どんな些細なことでも、すぐに学年主任や教頭に報告、相談し、途中経過や結末を必ず**確認**し報告する。

<緊急事案>生徒や教職員の命、安全、人権に関わること。触法行為、非違行為等。

イ 生徒一人一人の幸せを実現する支援者としての教職員

- (ア) 生徒の人権を何より大切にし、生徒の考えを尊重し、生徒を「～さん」と呼び丁寧な言葉遣いを心がけるなど、言語環境を整えハラスメントを防止する。
- (イ) 生徒の考えを尋ね、思いを聴き、共に悩み、共に喜び、共に一つ一つ成長する。
- (ウ) 未来を生きる生徒たちに必要な学力、資質、能力を、確実に身に付けさせる。
- (エ) 「先生」は「先に生まれた人」でしかないことを自覚する。先生の価値観はすでに古いものだが、生徒と対話することで新たな価値を生み出す。
- (オ) すべての生徒にとって居場所のある学校づくりに力を尽くす。

ウ 自らのパフォーマンスを100%発揮する教職員

- (ア) 同僚に気配りや目配りをし、声をかける。「どうしてほしい？」
- (イ) 『教師』として成長する。それは生徒たちに対する約束であり、教師としての責任・義務である。
- (ウ) 働き方改革は何のため？自分のため、同僚のため、家族のため、生徒のため…大切な人たちのために、業務改善やタイムマネジメントに努める。
「明日できることは今日やらない」 (19:00 退勤、計画年休年間7日以上を目指す)

エ 学級担任を支える組織強化

- (ア) 「全員担任」の構えで、学年や学校全体で役割を分担する。
～短学活、給食指導、清掃指導、道徳・学活授業、学年便り、教育相談 等
- (イ) 生徒指導事案には学年主任・学年生徒指導担当を中心とするチームで対応する。生徒指導主事及び教頭に情報を集約し、即時対応を心がける。
- (ウ) 適応指導、特別支援教育から各学級を支える。適応指導学級担任や特別支援学級担任と学年（交流学級）との連携を深める。

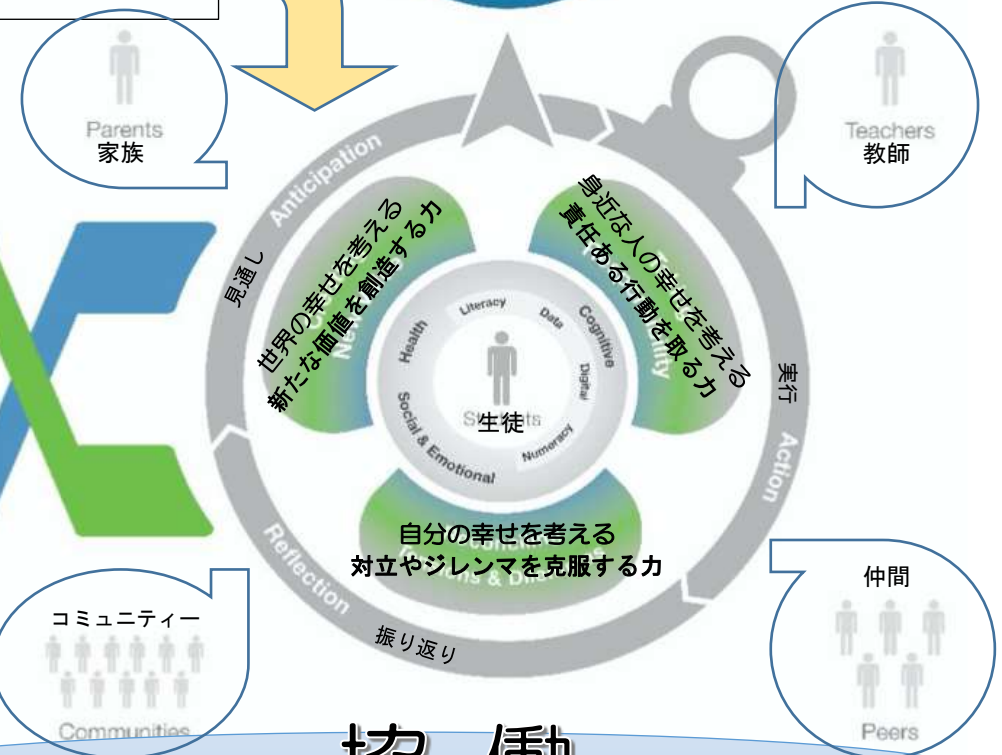
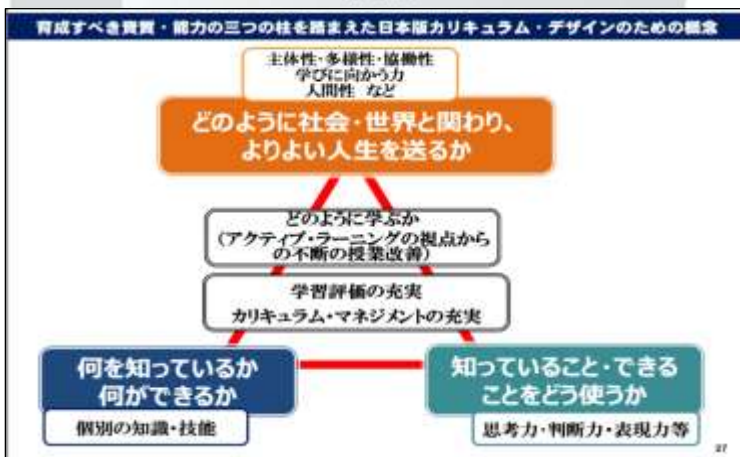
中条中学校

The ~~OECD~~ Learning Framework 2030

「社会に変革をもたらす可能性のあるキーコンピテンシー」
の育成を目指して



Competencies
資質・能力



協働

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、学校教育を通じてより良い社会を作るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと
- ② これからの社会を創り出していく生徒たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質能力を育んでいくこと
- ③ 教育課程の実施にあたって、地域の人的・物的資源を活用したり、社会教育との連携を図ったりして、学校教育を社会に開いていくこと

次代を創る人々が身に付けておくべき能力

新潟で活躍するベンチャー企業の
経営者たちが明かす！！

海外の学校と
オンラインで
コラボ

まちおこし

持続可能性

使える**英語力**

起業力

アントレプレナーシップ

金銭力

「総合」や生徒会活動、授業や部活動、学級・学年活動で
意識してみる、工夫してみる、やってみる

世界を身近に考える

I C Tの活用

新たな活用法の開発

**プログラミ
ング能力**

論理的思考

作文・論説

**プレゼン
能力**

調査活動

発表・提言

表現方法の工夫

2 令和5年度の重点的な取組

4つの柱

- (1) ESDを推進し「持続可能な社会の創り手」を育成する
- (2) 課題を共有し学校評価を実施して、学校運営の改善を図る
- (3) 特別支援教育と適応指導の一体的取組体制を構築し、誰一人取り残さない学校をつくる
- (4) 人権教育、同和教育を推進し、差別に気付き、差別を許さない人権感覚を磨く

(1) ESDを推進し「持続可能な社会の創り手」を育成する

ア キャリア教育の推進

【目指す生徒像】

将来の夢や希望をもつ生徒

- ☐ キャリア教育の視点から、複数の教育活動を関連付けて横断的に実践する。
- ☐ 「学級活動」や「総合的な学習の時間」で、職場訪問学習、職場体験学習、上級学校訪問、地域貢献活動など体験的な活動を推進する。
- ☐ 外部人材の活用や地域の人々との協働を重視し、講話や実技指導、体験活動等を積極的に実施する。
- ☐ 学習の前後や学期末等に、生徒自身に自らの成長を振り返らせ、家庭を交えて、将来について相談させる。

イ コミュニティー・スクールの活用

【目指す生徒像】

- 地域と積極的に関わる生徒
- 自分や学校、地域の良さが分かり発信できる生徒
- 明るく元気で、自分も他人も大切に作る生徒

- ☐ コミュニティー・スクールを活用し地域学校協働活動を充実させて、地域コミュニティの中核としての学校の役割を果たす。
- ☐ 地域住民と生徒が地域の課題を共有し、互いの考えや強みを活かしながら、Win-Winの関係を構築して解決を目指す。
- ☐ 学校だよりや学年（学級）だより、ホームページ、メール配信システム等を活用し、学校からの情報発信を定期的かつ積極的に行って、学校の取組状況を周知する。
- ☐ 学校支援ボランティアを積極的に活用する。
- ☐ P T Aや後援会、各種支援団体との連携を深める。

(2) 課題を共有し学校評価を実施して、学校運営の改善を図る

ア 「確かな学力の向上」の取組 [知]

【目指す生徒像】

自ら思考し、自ら学び続ける生徒

- ☐ 学習規律醸成に向けて、生徒会、学習指導部、生徒指導部と協働して取り組む。
- ☐ 家庭学習の定着を目指し、家庭への啓発に努める。
- ☐ 生徒の問いを大切に、言語活動に重点を置いて、生徒同士の協働による学びを充実させた授業を展開する。
- ☐ 研究主題に基づいて授業モデルを検証する。
- ☐ 「総合的な学習の時間」を柱に、各教科・領域が横断的に協働しながら、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ☐ N R T、全国学力・学習状況調査、Web 配信集計システム等を活用して、学力実態を多角的に分析し、課題を絞り、手立てを精選して授業改善に取り組む。
- ☐ 毎朝の朝読書を継続して行う。
- ☐ 図書館を「読書」と「学習」の場として活用できる環境を整備する。
- ☐ I C Tを活用した教育活動を推進する。

イ「豊かな人間性の育成」の取組 [徳]

【目指す生徒像】

自己有用感を高めていく生徒

- ☐ 生徒会を中心に、生徒による生徒のための組織的な自治活動に取り組ませる。
- ☐ 生徒朝会・学年朝会を、活動提案・振り返り・意見交換の場として活用する。
- ☐ 生徒会総務が中心となり、生徒同士や地域住民との協働的活動に取り組む。
- ☐ 学校行事等を利用し、異学年交流に継続して取り組む。
- ☐ 部活動の中で、課題に正対し仲間と共に解決を図る態度を醸成する。
- ☐ 体験をもとにした「考え、対話する道徳」の授業を実践する。
- ☐ 定期的な教育相談やチャンス相談を行い、生徒の悩みや課題に教職員が共に向き合い、解決の方向を相談する。
- ☐ いじめや問題行動、不登校について、特設委員会を中核として、チームで対応する。学年部と生徒指導部が中心となり、早期発見・即時対応に努め、スクールカウンセラー、教育委員会、児童相談所等の関係機関と連携して対応する。さらに保護者との連絡・相談を丁寧かつ継続的に行い連携して対応する。
- ☐ 校舎・教室の学習環境や言語環境を整える。

ウ「健康・体力の向上」の取組 [体]

【目指す生徒像】

望ましい生活習慣・持久力を身に付けていく生徒

- ☐ 自らの健康を自ら守ることや、身の回りの人々の健康と安全を守る態度と能力を育成する。（感染症防止対策、防災、メディアコントロール）
- ☐ 課題を教職員と生徒が共有し、「1学校1取組」を活用しながら、全教職員で共通理解を図って取り組む。
- ☐ 家庭での時間の有効利用のために、生徒が考え行動するような取組を実践する。
- ☐ 養護教諭や外部講師等による、保健指導や食育授業を行う。
- ☐ 学校保健委員会で、体力、健康及び生活習慣の実態を基にして、取組を評価して改善策を検討する。

（３）特別支援教育と適応指導の一体的取組体制を構築し、誰一人取り残さない学校をつくる

- ☐ 合理的配慮の下で、生徒や保護者と事前に面談し、誰にとっても居心地のよい学校、学年、学級、居場所づくりのため、指導・支援内容を確認する。
- ☐ 支援を要する生徒を全校体制で支援するため、特別支援教育部を中心に情報共有や生徒理解、通常学級における体制づくり（UDL等）等について研修・理解を深め実践する。
- ☐ 介助員の支援を受けながら、通常学級における交流学习を継続的に実施する。
- ☐ 「個別の指導計画」を基に指導を進めると共に、中期的に評価、改善する。
- ☐ 「個別の教育支援計画」を作成し、進学先の担当教職員と情報を共有する。
- ☐ 発達通級指導教室での指導により、個に応じた支援を推進する。

（４）人権教育、同和教育を推進し、差別に気づき、差別を許さない人権感覚を磨く

- ☐ 同和教育を中核とした人権教育に取り組み、かかわる同和教育を日常的に実践する。
- ☐ すべての教育活動を通じて、差別に気付く人権感覚を育てる。そのため教職員の人権意識を高める同和教育の研修会を実施する。
- ☐ 年間指導計画に基づいて、副読本『生きるIV』を活用した授業を実践する。
- ☐ 同和教育の授業を保護者へ公開し啓発を図ると共に、意見を参考にして授業の改善を図る。